

再び双子のトマト果实

Shin KUBOTA : Twin fruits of tomato again

久保田 信

2011年6月16日、和歌山県西牟婁郡白浜町のスーパーマーケットで購入したトマト果实の中の1個が、互いに癒着しないで根元で完全に分かれて実った双子状態になっている事例(図1)に、再び遭遇したので報告する。1対の液果は前報と同様に(久保田, 2003; 小林・久保田, 2005)、どちらもほぼ等大の長径33mmで、正常の大きさと色(赤色)であった。これまでの2例との相違は、今回の果实の萼片が2分岐と3分岐の2部分があったものの、総数は6本と通常の数であり(図2)、2例目も5本で通常の数であったが、初例は8本で異数で多かったのと異なっていた。

このような双子ができた原因は、前報(久保田, 2003; 小林・久保田, 2005)で推定したように、対生または互生する総状花序の枝梗の2本が、正常に分かれることなく癒合し、それぞれに果实が癒着しないで結実したことによる。

引用文献

久保田 信. 2003: 双子のマメトマト果实. くろしお, (22), 23.

小林亜玲・久保田 信. 2005: 双子のマメトマト果实. くろしお, (24), 15.

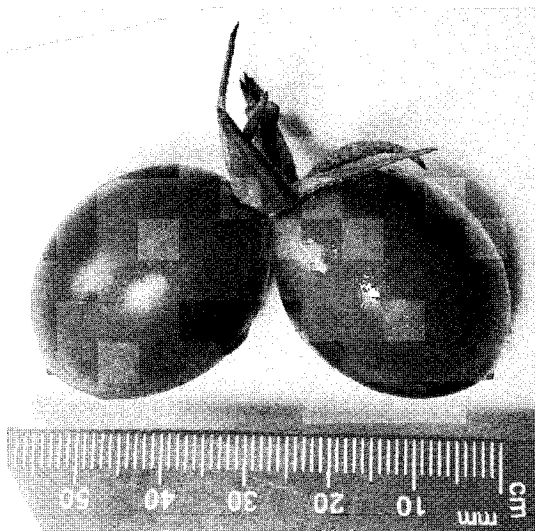


図1 双子のマメトマト果实

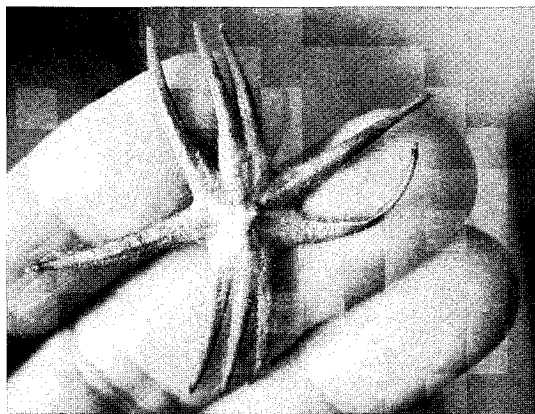


図2 双子のマメトマト萼片

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)